

福岡市政担当記者各位

令和4年1月31日

「早歩き」で、
要介護リスク半分！

福岡市民の要介護状態予防因子解析

～ 福岡市と九州大学の健康づくり施策に関するデータ分析連携 ～

福岡市では、人生100年時代の到来を見据え、誰もが心身ともに健康で自分らしく暮らせる持続可能なまちを目指すプロジェクト『福岡100』を進めております。

この取組みの一つとして、福岡市では行政が保有する医療や介護、健診等に関するビッグデータを一元的に集約した「地域包括ケア情報プラットフォーム」を構築しており、令和2年7月、九州大学と覚書を締結し、連携してデータ分析を行っています。（令和2年7月31日にお知らせ 別添参照）

データ分析から、福岡市民が将来の要介護状態の発症を予防するには、“咀嚼能力の向上”、“朝食を食べる”こと、“やせ”や“歩行速度の低下”を防ぐことが重要であることが示唆されており、この度、九州大学大学院医学研究院衛生・公衆衛生分野の二宮利治教授から発表されましたので、その概要をご案内します。

分析概要

【分析対象】

2012年4月時点で57-64歳かつ同年度に健診を受診した要支援・要介護と認定されていない福岡市民のうち、2020年度まで追跡できた13,480名。

【分析結果】

追跡期間8年間の間に、421人が要介護1以上に認定された（3.1%）。解析の結果、身体状況や生活習慣において、“やせ（BMI18.5以下）”、“喫煙習慣あり”、“朝食を食べない者”は、要介護の発生のリスクが有意に高く、“同年代と比較して歩行速度が速い”と答えた者はその発症リスクが有意に低かった。

また、“咀嚼能力の低下”も要介護発生のリスク上昇と関連している。（R2年度に別途分析した結果）

身体状況・生活習慣	要介護発生リスク
やせ	2.17倍
同年代と比較して歩行速度が速くない	1.86倍
*噛みにくいことがある／ほとんど噛めない	1.51倍
喫煙習慣あり	1.29倍
週3回以上朝食を食べない	1.27倍

* 65歳以上の横断研究の成績より

【考察】

“喫煙習慣”、“朝食を食べない”ことは、生活習慣病の危険因子であることから要介護状態の発生リスクを高めると考えられる。さらに、“やせ”や“歩行速度”は筋肉量や筋力を反映しており、**筋肉量および筋力低下も要介護状態の危険因子である**と考えられる。

【今後の取組みについて】

福岡市では、今回判明した危険因子の防止につながる施策を企画・検討していきます。実施が決まりましたら、お知らせいたします。

【問い合わせ先】

保健福祉局総務企画部政策推進課 担当：中村
TEL：092-733-5343 FAX：092-733-5587

令和2年7月31日

保健福祉局

国立大学法人九州大学

市政記者各位

福岡市と九州大学の 健康づくり施策に関する連携について

福岡市では、人生100年時代の到来を見据え、誰もが心身ともに健康で自分らしく暮らせる持続可能なまちを目指すプロジェクト『福岡100』を進めております。

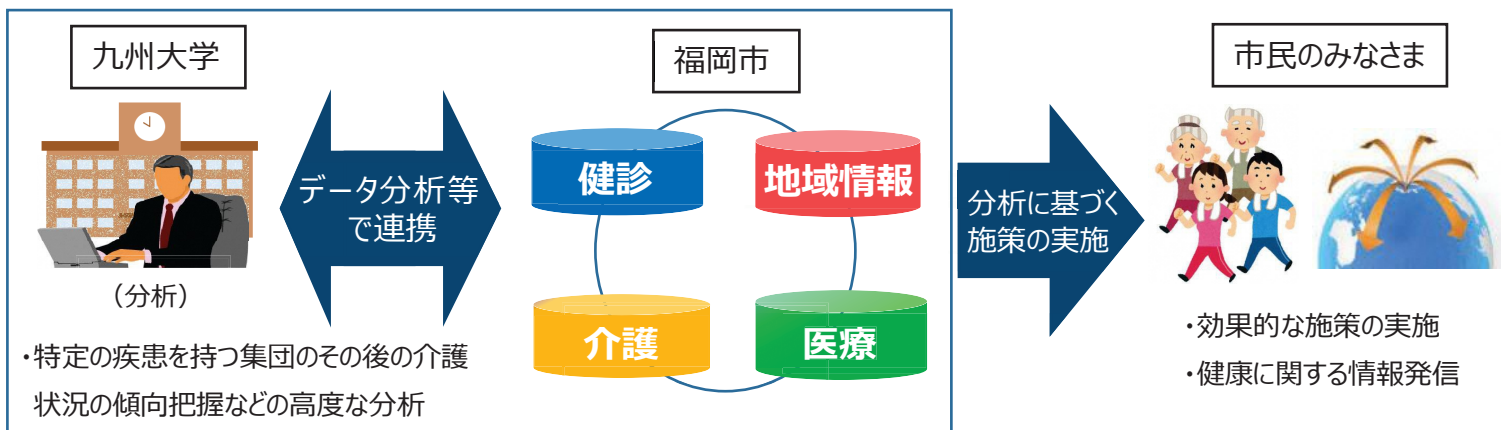
この取組みの一つとして、福岡市では行政が保有する医療や介護、健診等に関するビッグデータを一元的に集約した「地域包括ケア情報プラットフォーム」を構築しています。

この度、福岡市と九州大学（地域住民を対象に1961年から脳卒中などの疫学調査を実施）は、健康づくり施策に関するデータ分析などを連携して進めていくこととし、令和2年7月31日付で覚書を締結しました。

今後、本プラットフォームに蓄積された情報の分析を両者で行い、科学的根拠に基づいた効果的な健康づくり施策の企画立案や、市民のみなさまへの情報発信を行っていきます。

【具体的な取組みについて】

毎年度、福岡市が九州大学と委託契約を締結し、健康課題等に関するデータ分析を行います。今年度は【介護と生活習慣病の関係性】について分析を行い、分析結果に基づく施策提言や、分析手法等に関する職員研修の開催などを予定しています。



九州大学問合せ先

医系学部等事務部学術協力課：佐藤

TEL：092-642-6780

福岡市問合せ先

保健福祉局総務企画部政策推進課：村山

TEL：092-711-4811（内線：2010）